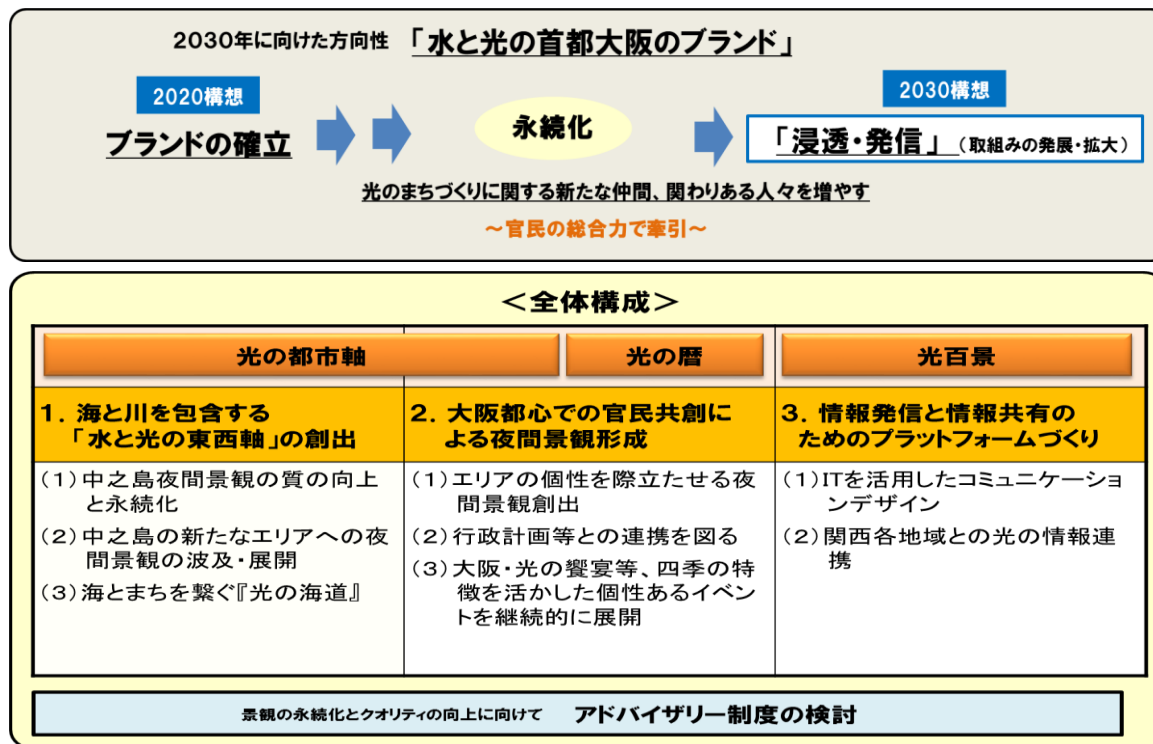


光のまちづくり推進委員会
2022年度ご報告

水と光のまちづくり推進会議

大阪光のまちづくり2030構想 アクションプラン

大阪光のまちづくり2030構想 2021～2030年



2021年度第2回本委員会（2022年5月）にて、2030年までを3つのフェーズに分け、それぞれの目標を設定

第1フェーズ

2022～2023

官民共創の総合力を活かした光景観の情報集約・プラットフォーム構築

第2フェーズ

2024～2025

大阪・関西万博の機会を活かした官民共創による情報発信

第3フェーズ

万博終了後～
2030

レガシー継承・永続化に向けたマーケティング

大阪光のまちづくり2030構想 アクションプラン

2020
構想

2030構想 「水と光の首都大阪のブランド」 浸透・発信

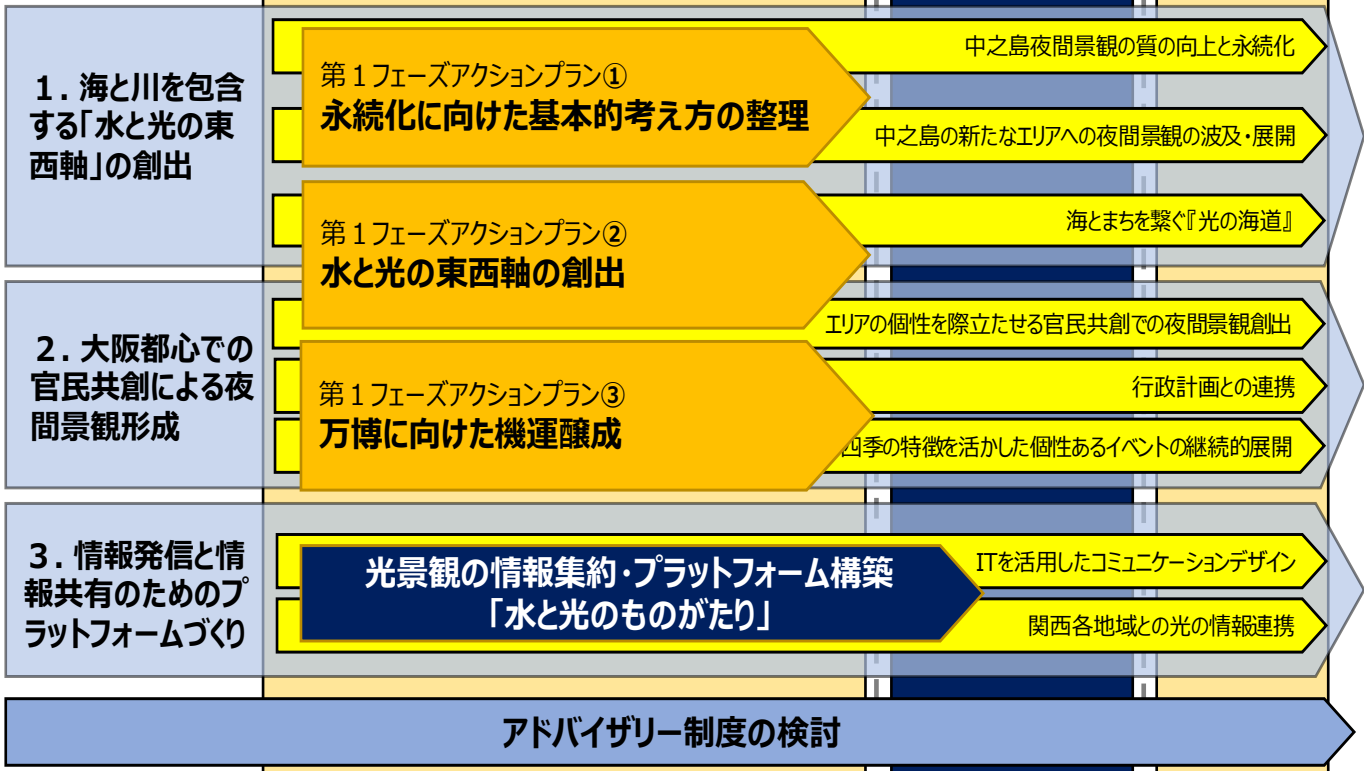
～2020



2022～2023	2024～2025	万博終了後～ 2030
-----------	-----------	----------------

第1フェーズ 官民共創の総合力を活かした光景 観の情報集約・プラットフォーム構築	第2フェーズ 大阪・関西万博の機会を 活かした官民共創による 情報発信	第3フェーズ レガシー継承・ 永続化に向けた マーケティング
--	--	---

「水と光の首都大阪のブランド」 確立



2030

官民共創による
「水と光の首都大阪」の永続化



2030構想 第1フェーズ アクションプラン ① 永続化に向けた基本的考え方の整理

- 永続化に向けた基本的考え方を整理すべく、統一感のある夜間景観ならびに設備の維持管理等について、財源確保の観点も含め、小委員会等で幅広い関係者と意見交換。

■ ブランドに関する基本的考え方について

2022

◇ 中之島のエリアマネジメント団体との意見交換

◇ 水と光の東西軸ワーキングでの意見交換

参加者

・中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会
・一般社団法人中之島まちみらい協議会

参加者

・水と光の東西軸に関連した民間企業、観光関連団体等
(大阪観光局、万博協会、京阪HD、海遊館など)

- 基本的な色合いの統一、ストーリーを持たせる、万博の機会を活かした情報発信の必要性を議論

2023

➔ ブランドに関する基本的考え方のとりまとめ

下記の視点を元に委員会で議論・取りまとめ

- ① まちとの調和とライトアップ対象物の価値向上
- ② 地域の方々が賛同するシビックプライドの醸成
- ③ 都市格の向上

日常の光

非日常の光

- ・ 現行の機材のスペックを関連団体より集約
- ・ 機材の仕様に応じた案を委員会にて作成

広い関係者との意見交換 エリマネ団体・関連行政部局との連携

ブランドに関する
基本的考え方
とりまとめ

■ ライトアップ機器の技術に関する基本的考え方について

2022

◇ 技術ワーキングでの意見交換

参加者

・ 一般公募により集まった照明機器メーカー各社
・ ライトアップ機器管理各部局 (大阪市建設局、西大阪治水事務所)

- インシャル・ランニングコストを下げ、光景観の永続化・民間参加を促すため、各メーカー間の互換性等を検討

2023

➔ 技術の基本的考え方のとりまとめ (風景を安定させる技術参考書)

- ・ 過去ライトアップに関わった企業等にヒアリング
- ・ ライトアップ新設時にインシャルコスト、維持管理費用削減を目的

■ 護岸ライトアップ実験の実施 (西大阪治水事務所)

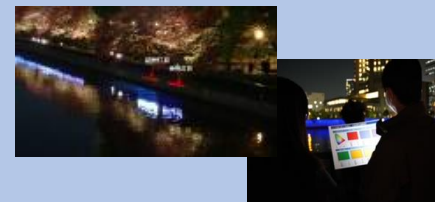
目的：実際の見え方を確認のため実施・意見交換

- ① 大川 南天満公園
LEDの灯部 (ひも状・棒状) それぞれの見え方確認
- ② 堂島川 国際会議場前
様々な色味の実際の目で見た見え方の確認

日時：2022年11月17日 (木) 17:00~20:00

参加者：総括小委員会有志、岩崎電機(株)、カラーキネティクス・ジャパン(株)、パナソニック(株)、事務局

- ライトアップで際立たせるものの定義の必要性
- まちとの調和の必要性 (照度の抑制)



2030構想 第1フェーズ アクションプラン ②水と光の東西軸の創出

水と光のまちづくりのシンボルである中之島（都心部）と万博会場のあるベイエリアを結ぶ「水と光の東西軸」を創出するために、官民協働で取り組みを促進

夢舞大橋（官）

- 海に浮いた橋で、大型船が航行する際には移動させることができる世界初の巡回式浮体橋。点灯を検討中。



此花大橋（官）

- 万博会場へつなぐ交通導線の重要な役割を担う橋梁で、現在車線拡幅工事中でライトアップ機器更新を検討中。



中之島エリア他（官民）

- 官民共創で大阪の都市ブランドを牽引する都市景観が定着した成功例。護岸は万博に向け、地域と調和した色彩も含め、検討中。大阪城エリアについても光景観形成を検討。



阪神高速環状線橋脚（民）

- 最新機材（フルカラーLED）に更新の上、2022年12月点灯再開



万博会場と都心部を結ぶ
水上交通導線

ベイエリア（万博会場）



水と光の東西軸

天保山大橋（民）

- 阪神高速の長大橋の一つで、万博に向け、遠隔制御可能なフルカラーのライトアップ機器を設置予定。



※写真はイメージ

端建蔵橋（官）

- 2024年架け替え工事終了予定。「土佐堀川のアーチゲート」として土佐堀川への光景観形成についても検討。



※写真は堂島大橋

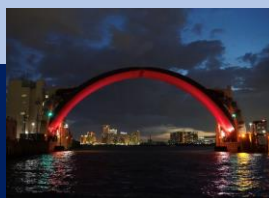
中之島GATEエリア（官民）

- 海船と川舟を乗り換える結節点として、船着き場を大阪府が整備。2025年春の開業に向けて事業者公募。

■ 安治川水門ライトアップ実験（西大阪治水事務所）

東西軸を構成する安治川水門のライトアップを目指し、現在利用可能な照明を活用し、ライトアップ時の見え方を確認。

日時：2022年8月31日夜
参加者
・岡総括小委員長
・森秀人（照明デザイナー）
・大阪府 河川室・事務局



安治川水門（官）

- 大阪の安心安全を守り、経済発展を支えてきた、世界的にも珍しいアーチ型水門。大阪三大水門の一つで万博後の更新が決定。

2030構想 第1フェーズ アクションプラン ③万博に向けた機運醸成

大阪・関西万博の機会を活かした「水と光の首都大阪」の価値訴求、万博後の「水と光の首都大阪」の持続化を目標に、地域の受け止め等を把握するとともに、水都大阪コンソーシアムと連携

◆ 中之島夜間景観に関するアンケート

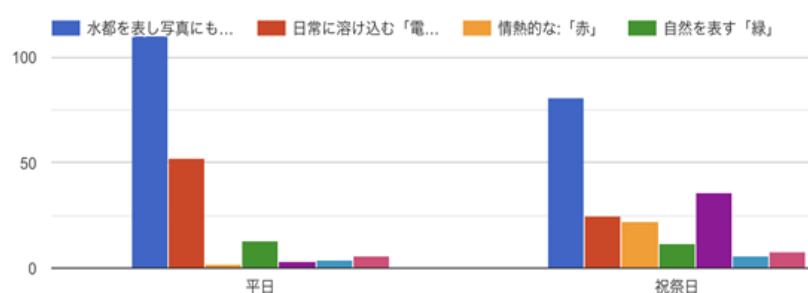
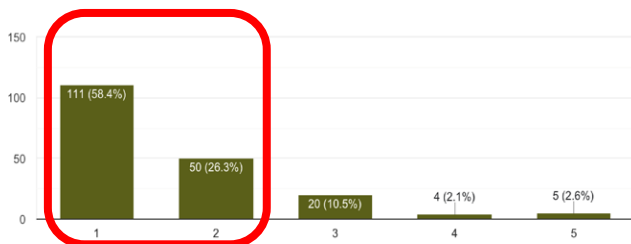
対象：光のまちづくり、中之島に関する企業・団体のオフィスワーカー、住民（協力：光のまちづくり推進委員会関係団体、（一社）中之島まちみらい協議会、中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会、北浜水辺協議会、中之島バンクスなど）

回答期間：11/4～11/20、**回答者数：**190名

- 中之島周辺での夜間景観形成がまちの雰囲気をよくしている →**84.7%が好意的な回答**
- 護岸の色彩 ふさわしい色は →**水都を表す「青」が人気**

問2: 中之島周辺の夜間景観形成がまちの雰囲気を良くしている。

190件の回答



◆ 水都大阪コンソーシアムと連動したフォトコンテストの実施

● 水都大阪コンソーシアム

水都大阪フォト & 動画コンテスト
My Aquametropolis Osaka Photo Contest

ハッシュタグ「#水都大阪#春」「#水都大阪#夏」「#水都大阪#秋」「#水都大阪#冬」
つけてSNS (Instagram, Twitter, Facebook) に投稿してね。

テーマ ～春夏秋冬～わたしの水辺～

募集期間 2022年6月29日(水)～11月18日(金)

結果発表 2022年11月末(このサイトで発表します)

● 光のまちづくり推進委員会

テーマ：もてなしの光（大阪・関西万博の機会に人々をもてなす～大阪光のまちづくり『5つのコンセプト』より～）

目的：水と光のまちづくり活動の周知
万博開催にむけたより一層の夜間景観形成機運醸成



2030構想 第1フェーズ アクションプラン 2023年の方向性（案）

2030構想

水と光の首都大阪のブランド永続化、浸透発信、官民協創による永続的な光景観の達成

第1フェーズ: 官民共創の総合力を活かした光景観の情報集約・プラットフォーム構築

第1フェーズアクションプラン

2022年

2023年の方向性（案）

① 永続化に向けた 基本的考え方の整理

- ・ エリアマネジメント団体や民間関連企業との意見交換の実施
- ・ 護岸ライトアップ実験による見え方の確認



- ・ 幅広い関係者との意見交換による永続化に向けた基本的考え方のとりまとめ

② 水と光の東西軸の創出

- ・ 水と光の東西軸関係者の意思統一
- ・ 安治川水門ライトアップ実験が行われるなど、実現に向けて前進



- ・ より多様な関係者が水と光の東西軸の創出に参加したくなる環境づくり

③ 万博に向けた機運醸成

- ・ 水都大阪コンソーシアムと連携した「水と光」でのフォトコンテストの実施



- ・ “水と光の首都大阪”でのシティプロモーション
- ・ 水都大阪コンソーシアムとの連携深化

「水と光のものがたり」

ライトアップ
注目



ストーリー・コンテンツ
言語化・拡がり・伝承

相乗効果で高付加価値化

水と光の東西軸も含め、ハードにコンセプトを入れていく（パッケージ化）

たとえば 安治川水門

- ・ 水害が頻発していた大阪に建てられた三大水門の一つ
- ・ 建設後、水害は減少し大阪の経済発展を支えた
- ・ 大阪の治水技術のシンボル



ライトアップ×ストーリー人の心に残る

◆ 水都大阪コンソーシアム
「水都の教科書」とも連携

対象物のライトアップだけでなくストーリー（コンテンツ）も際立たせることで、人が語り、歴史の伝承にもつながる = 万博レガシーの継承、civic prideの醸成

2024-2025

第2フェーズ: 大阪・関西万博の機会を活かした官民共創による情報発信